

一〇二三年一月二四日

群鳴の翔ちて落葉を舞ひ上げり
菜畠今朝まばゆきほどの霜光
興に乗るぬり絵の夫と日向ぼこ

陽の窓に香箱座り猫小春
僧院の白きクルスや冬晴るる
咳をして人目氣にする電車かな

一〇二三年一月二三日

パレードを寿ぐごとく銀杏散る
植木屋の跡取りが来て年用意
伊勢路抜け動くものなき冬田かな

一〇二三年一月二三日

濃き霧を貫き馳せる新幹線
裁縫の特等席や縁小春

一〇二三年一月二二日

身ほとりを片付けながら大根炊く

三輪山のふもと広ぐる大根干し

特攻の出撃跡地枯れすすき

酒蔵の白壁鎧ふ薦紅葉

康子
千鶴

大根と法衣干しある里の寺
海望む寝墓に手向く冬薔薇

たか子
澄子

素秀
やよい

大路までひと見送りぬ冬の月
元気かと気まぐれ電話冬ぬくし

もとこ
澄子

みきえ
せいじ

母ひとり子ひとり七五三詣り
合掌のごと翅合はせ蝶凍つる

もとこ
澄子

もとこ
みきえ

ママチャリの籠に団栗二つ三つ
黄落の高舞ふもありつむじ風

うつぎ
明香

明日香
康子

朽木めく老幹なれど冬芽もつ
水鳥の影もろともに潜りけり

ぼんこ
明日香

明日香
康子

鉄塔の真上に凍つるヒ首の月
出来たての霜きらめかせ朝日出づ

たか子
明日香

満天
なつき
せいじ
むべ

枯葦のぞめき隠れに川眠る

素秀
明日香

毎日旬会みのる選・一〇二三年一月二六日

一〇二三年一月二〇日

大根と法衣干しある里の寺
海望む寝墓に手向く冬薔薇

たか子
澄子

大路までひと見送りぬ冬の月
元気かと気まぐれ電話冬ぬくし

もとこ
澄子

母ひとり子ひとり七五三詣り
合掌のごと翅合はせ蝶凍つる

もとこ
澄子

ママチャリの籠に団栗二つ三つ
黄落の高舞ふもありつむじ風

うつぎ
明香

朽木めく老幹なれど冬芽もつ
水鳥の影もろともに潜りけり

ぼんこ
明日香

鉄塔の真上に凍つるヒ首の月
出来たての霜きらめかせ朝日出づ

たか子
明日香

枯葦のぞめき隠れに川眠る

素秀
明日香